

歩く国際協力「Walk in Her Shoes 2022」への ご参加ありがとうございました！



3月8日の国際女性デーから5月末までの期間、11回目の開催となった本年度のキャンペーンには、過去最多の4,000名以上のご参加をいただきました。そして、当初の目標歩数であった7億歩を大幅に超え、14億歩まで到達することができました。

特に「好きな時間、好きな場所で歩く」では、オンラインでつながりながら気軽に国際協力と健康増進ができる取り組みとして、個人、企業、またゼミやサークルなど大学生グループ単位で、幅広い皆さまにご参加いただきました。

さらに、3月21日には、2年ぶりにウォークイベント「世界水の日」さくらチャリティウォークの開催が実現し、107名の皆さまと彼女の身になって歩くことができました。また、CARE 支援組織主催の九州でのイベント実施のほか、自主企画イベントも全国5カ所で開催され、キャンペーンを盛り上げていただきました。

例年を上回る多くの皆さまと、日々、水汲みのために歩かねばならない女性や女子たちに想いをこめて、歩くことができたことをうれしく思います。参加者の皆さま、ご協力企業の皆さまに、心から感謝申し上げます。来年の国際女性デーに、また笑顔でお会いできることを楽しみにしております。

(マーケティング部 神)

CAREの「C」の写真をSNSでシェア！

2,630枚が集まりました。写真一枚につき100円の寄付に。



▲3月21日の当財団主催のイベントで水運び競争をする様子



▲青森県弘前市のジュニア・アンバサダーを中心に企画したウォーク・アンバサダーとは、キャンペーンの広報を担う全国各地方のガールスカウトに所属する中高生。

走る国際協力「東京レガシーハーフマラソン 2022 チャリティ」に選出されました

この度、当財団は「東京レガシーハーフマラソン 2022 チャリティ」の寄付先団体に選ばれました。

今年度は、スポーツを通してチャリティ活動の輪を広げることを目指し開催されるものです。当財団への支援（寄付）を通じて参加を希望される皆さまにエントリーをいただき、先着順にて選任しました。スポーツから生まれる支援の輪を、途上国や紛争・災害地域に届け、困難な状況にある女性と女子の自立を目指す取り組みに充てさせていただきます。これから開催当日まで、チャリティランナーの皆さま全員の完走に向けて、応援をよろしくお願いいたします。

- 東京レガシーハーフマラソン 2022 公式ウェブサイト URL : <https://legacyhalf.tokyo/>
- 開催日：2022年10月16日(日)

新たに着任しました！



財務・総務部長

今年4月から、事務局で財務・総務を担当することになりました。前職は総合商社で、ルーマニア等への駐在を含め主に海外関係の仕事をしたが、国際援助関連の仕事をしたことはなく、また管理部門での経験も多くないので入局以来日々勉強に明け暮れています。CAREは女性と女子が主人公の組織なので、私は支援者や職員の方々の温かい思いを現地に届けるための縁の下で力持ち的存在になりたいと思っています。多くの皆さまとの交流を楽しみにしております。(吉澤 徹治)



個人寄付担当

前職はファッションやインテリアなどのセレクトショップに15年ほど勤めていました。商品のバイイング(仕入れ)をする中でサステナビリティやフェアトレードという観点を重視するようになり、国際協力に強い関心を抱きました。CAREが行っている女性や女子にフォーカスした活動は、貧困削減やジェンダー平等に向けたとても実践的な取り組みだと感じています。新たな分野のチャレンジで手探りしながらではありますが、精一杯努めてまいります。(轟木 典子)

個人支援者専用ダイヤル TEL:03-5499-9931

CARE アクションする



公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

〒171-0031 東京都豊島区目黒2-2-1 目黒カルチャービル5階

TEL:03-5950-1335 FAX:03-5950-1375

E-mail: info@careint.jp Website: www.careint.jp.org

Facebook: www.facebook.com/CAREjp Twitter: <https://twitter.com/CAREjp>

※本誌へのご意見、ご感想を募集しています。
発行元までお寄せ下さい。

※このニュースレターのデザイン・レイアウトは、CAREのデザインボランティアの寄稿募集のご協力により、制作されています。



CARE World

Vol. 43 ケア・インターナショナル ジャパン
Newsletter June 2022



ケア・インターナショナル ジャパンは、世界100か国以上で人道支援活動を行う国際 NGO ケア・インターナショナルの一員です。災害時の緊急・復興支援や「女性や女子」の自立支援を通じて、貧困のない社会を目指しています。

Contents

page 1 最新のケア・インターナショナルを巡る動向

page 2
page 3 ウクライナ危機緊急支援事業

page 4 歩く国際協力「Walk in Her Shoes 2022」
東京レガシーハーフマラソン 2022 チャリティ

3年ぶりの対面による総会にて、「CARE ビジョン 2030」の優先課題を議論

6月8日から11日までの4日間、ケア・インターナショナルの総会がパリで開催され、日本から目賀田理事長とともに出席しました。全体では、ケア・インターナショナルの新旧会長・監査委員会メンバー、事務総長、加盟組織の会長・事務局長など50名余りが参加するイベントとなりました。新型コロナウイルス感染症の流行により対面での会議が開催できない状態が2年余り続いていましたが、今回久々の対面会議が実現しました。

最初の2日間は事務局長会議が開催され、2030年までの10年間における CARE のインパクト(ポジティブな社会的・環境的影響)の目標である「CARE ビジョン 2030」の達成のための優先課題について議論が行われました。

続く2日間では、まず加盟組織の会長をメンバーとするカウンシルミーティング(評議員会)が開催され、現会長アリエル・ロスチャイルド氏の退任とムシンビ・カンゴロ氏の新会長就任を含む主要な人事が承認されました。

ムシンビ氏はケニア出身で、2011年から2019年まで「女性のためのグローバル基金」の会長を務めるなど、多くの人道支援組織で要職を務めてきました。アフリカ出身の女性が CARE の会長に就任したことは、途上国への主体性の移行と女性活躍推進という国際協力の潮流を反映するものといえるでしょう。

その後、前半2日間での議論に基づき、「CARE ビジョン 2030」の達成のための優先課題が、事務局長・会長全員による戦略会議において議論され、次の3つの優先事項が合意されました。



1. 激動する世界の環境の中で、有事への迅速な対応に向けた態勢を整えるとともに、CARE が強みを有する分野での対応力をさらに高めること。
2. 「CARE ビジョン 2030」の目標達成に向けて必要な投資を行うことで、不足を補うとともに、組織の効率性を高めること。
3. 支援対象国におけるプレゼンスを高めるために、CARE 加盟組織間の連携を強化するとともに現地 CARE 組織(カントリーオフィス)に対する技術やノウハウの移転と主体性の移行を進めること。

今後1〜2年の間に複数の途上国組織の正式加盟組織への昇格が展望されており、CARE 組織全体の多様化と、南北間のより平準化したバランス実現が図られるものと期待されます。

(事務局長 河崎 卓)

ウクライナ人道危機

2022年2月24日、ロシアがウクライナへの軍事侵攻を開始。これまでに680万人のウクライナの人々が国外に避難し、人口の約40%の1,570万人が支援を必要としています(2022年6月6日現在)。

この人道危機をうけ、CAREはパートナー団体とともに、ウクライナ西部の都市リヴィウを中心に、国内に取り残された人々の支援を行っています。また、ルーマニア、モルドバ、ポーランドの国境周辺やジョージアでは、主にヨーロッパに拠点を置く複数のCARE事務所が連携して、国境を越えて祖国を逃れた人々の支援を実施しています。

この人道危機の特徴は、国を逃れた人々の9割が「女性と子ども」という点です。CAREは、この点に着目し、緊急時において最も弱い立場におかれやすい女性と子どもに配慮した支援を行っています。



©Ninja Taprogge/CARE



ポーランドとの国境では
温かい食事と避難所を提供

ポーランド
(CARE アメリカ)

スロベニア

リヴィウ

キーウ

ウクライナ
(CARE ドイツ)

ハリコフ

ドネツク

マリウポリ

モルドバ
(CARE フランス)

ルーマニア
(CARE フランス)

オデーサ

東部ではスロベニア赤十字と
連携し水や食糧などを配布

ジョージア (CARE コカサス)



©Aleš Černivec/CARE Germany



©2022 Lucy Beck/CARE



©2022 Laura Noel/CARE

国内に留まってボランティア活動続けるリュドミラさん

リュドミラさんは、現在は首都キーウの地下にある緊急避難所で暮らしていますが、2014年にドンバス地方からキーウへと逃れてきました。2022年となった今、「もう十分です。二度と逃げることはありません。ここで人々を助けます」といいます。そしてCAREは、そのような彼女らの活動を、主に資金面から支援しています。

看護師として訓練を受けたリュドミラさんは、物資が完全に遮断されている地域に住む人々を助けることを使命とし、食糧、薬、その他の切望されている物資を人々に届けています。

「定期的に薬を必要としている200人には、自宅まで薬を届けています。身寄りがなく、困窮した高齢者がほとんどです。多くの方がお腹を空かせています。1週間何も食べていないという90歳の女性もいました。中には癌を患っている人もいます。人々は薬がなければ生きていけません」とリュドミラさんは切迫する状況を伝えてくれました。



©Sarah Easter/CARE

▲緊急連絡調整のサラと写るリュドミラさん(左)

具体的な活動内容

これまでに247,440人に支援を届けました
(2022年5月25日現在)



食糧、水、衛生用品、そして現金などの緊急支援物資の配布

緊急支援物資には女性と女子のための衛生用品、離乳食、おむつも含まれています。また、国内に留まって活動続けるボランティアに活動資金を支援するなど、日々変化するニーズに柔軟に対応しています。



ウクライナの人々への心理的影響とトラウマを緩和するための心のケア

精神科医、ソーシャルワーカー、医療従事者、ボランティアなどに、緊急心理社会的サポートとトラウマカウンセリングに関する研修を提供しています。今後このような支援がますます重要になってきます。



その他、今後、ウクライナの国内避難民および難民が必要とする支援

長期にわたる戦争は、搾取や人身売買、そして、妊産婦の死亡など、女性や子どもへのリスクを高めます。CAREは、弱い立場におかれた人々の代弁者となって国際社会にその危険性を訴えかけていくとともに、それらの人々への支援を引き続き行っています。

*括弧内は現地にて活動を主導するCAREメンバー/アフィリエイト国名

更なるご支援のお願い

2022年3月に国内において緊急募金を開始して以来これまで、皆さまより、21,292,250円ものご寄付をいただきました(2022年5月31日現在)。中でも、3か月間にわたり実施したクラウドファンディングでは、当初の目標を超える6,657,000円のご寄付をいただきました。この場をお借りしまして、皆さまのあたたかいお気持ちに心より感謝申し上げます。

ウクライナでは、戦争の長期化に伴い、自宅を後にした1,390万人のうち、710万人がウクライナ国内で避難生活を余儀なくされ、先の見通せない暮らしを送っています。引き続き、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

